

第1回オープンファクトリー座談会 報告書

1. 実施概要

行事名称	第1回オープンファクトリー座談会
テーマ	「オープンファクトリーから生まれた化学反応とは？」
日時	2022年7月28日(木) 17:30~19:00
場所	Zoom によるリモート開催
参加者	13名 オープンファクトリー主催者 6名 燕三条工場の祭典 齋藤様 / おおたオープンファクトリー 岡村様 / 葦崎オープンファクトリー 仲澤様 / 船橋市観光協会 栗田様 / 横浜市港北区役所 藤原様 / 鯖江市 RENEW 村上様 一般参加者 1名 事務局 6名
プログラム	オープンファクトリーニュースルーム 開催完了・予定などの情報共有 オープンファクトリー対談 活動紹介とディスカッション お知らせ 次回以降の予定とアンケート
主な成果	オープンファクトリーサミットは内容を一新し、対談を重視した「座談会」を開催、最新の生きた意見を共有した。参加者の評価も高く、継続的に行う価値を確認した。

2. オープンファクトリーニュースルーム

概要	全国約40のオープンファクトリーのうち、今年は28か所で開催。既に9か所が開催済み。10月は8か所開催と集中している。オンラインに加えて、リアルでの開催が復活している。
----	--

3. オープンファクトリー座談会

活動紹介：燕三条「工場の祭典」

デザインリテラシーを高めることを重視している。鉄を熱する炎の色を象徴するピンクと鉄の色を象徴するシルバーでストライプを表現、おもてなしを表すため工場をストライプで彩る。地域内外の人にモノづくりの現場に足を踏み入れて欲しい。

また、「工場の祭典」のローマ字スペル KOUBA は工場(こうば)、耕場(こうば)、購場(こうば)を掛け合わせたもの。KOUBA で人を繋げ、燕三条が作る製品の付加価値を向上させるための取り組みが「工場の祭典」である。

活動紹介：おおたオープンファクトリー

羽田空港から田園調布までの、多摩川と東急多摩川線に挟まれた2キロのエリアに、金属加工などの中小、零細企業の工場がある。

OFとしては見栄えのするエリア。地域住民に配慮した街づくりで、産業観光まちづくり大賞を受賞。コロナ禍でオンラインのツアーを行ってきたが、2022年はリアルでの開催を予定している。

工場数はピーク時から1/3に、従業員数は1/5に減少。工場のオープン化で工場同士が結び付く「工場プロジェクト」や、飲食できる「町工Bar」、自由に使える「くりらぼ多摩川」など、モノづくりとまちづくりのコラボを促進している。

ディスカッション

「オープンファクトリーから生まれた化学反応とは？」をテーマに、意見交換を行った。最初に活動を紹介したオープンファクトリーから、次に参加者からコメントを頂いた。

「工場の祭典」を10年続けているが、いつまでイベントに頼るのか、という問題意識がある。海外まで販路を拓けるなど、付加価値を上げる活動を行ってきたが、各企業がプロモーションの大切さに気づいて日常的に取り組むのがあるべき姿。その気づきがオープンファクトリーの化学反応だとしたら、化学反応にも限界がある、ということだ。

この限界を乗り越えるため、「工場の祭典ではできない取り組み」としてJRとコラボを行っている。駅舎をお借りして、一般の方のアイデアを募集、図面化から工場の紹介を経て、商品化までお手伝いしている。

おおたはBtoBなのでオープンファクトリーによる販路拡大はないが、地域貢献や社員のモチベーションUPなどの効果がある。小学校が工場に関心を持ったり、社長同士で交流したり、仲間で仕事を回したりしている。

イベントとしてのオープンファクトリーにどこまで意味があるのか、そろそろ転換期にきているのではないか。今後は、観光庁に予算を確保していただくなど、費用をご負担いただく工場見学ツアーを検討している。廃材を使ったワークショップのようにオープンファクトリーでSDGsを学ぶことも考えられる。

横浜の港北区は完全に行政主体であり、工業会が主催者側に入っていない。他のオープンファクトリーのように、事業者の主体的な関与が欲しい。

皆さんがオープンファクトリーの先を考えていることが良く判った。地域の特性を活かした取り組みにしてゆきたい。

葦崎は、オープンファクトリーを実施する規模に届いていないが、将来はオープンファクトリーを実施したい。次の座談会にも参加して情報を得てゆきたい。

4. アンケート結果

オープンファクトリーニュースルーム、オープンファクトリー対談、運営、共に高い満足度を示しており、座談会形式によるプログラムへのご評価をいただいた。主なコメントは以下のとおり。

「全国各地のオープンファクトリーの動向を知ることができた」「オープンファクトリーの実施規模や人口規模の近いところに対談したい」「先を行っているグループと、歴史の浅いグループとの差が感じられた」「自分達と異なる立場でオープンファクトリーに携わっている方から見たときの難しさを伺うことができた」「中小製造事業者のビジネス機会創出や連携促進を図る事業があるので声を掛けたい」

以上